

朝倉市政 最高予算 一般会計 291億円を可決

超高齢・人口減社会対策と大型事業

予算審査特別委員会を開

き、平成27年度予算について、審査を行いました。

平成27年度一般会計当初予算は291億円で過去最高額となっています。

執行部からは予算編成方針として、「日本一のふるさと朝倉」づくりに向け、限られた財源の中で施策を重点化し、事業を効果的に推進していくとの説明がありました。

平成26年度は市長選挙により当初予算は骨格予算であったため、6月議会での補正後の予算総額と比べても、29億7258万円、11.4%の大幅な増となっている。増額の大きな要因として、朝倉農業高等学校跡地活用推進事業（5億1520万円）、新秋月郷土館建設事業（5億1052万円）、水源かん養基金への積立金（4億5545万円）など

があります。

義務的経費（人件費、扶助費、公債費）の予算編成比率は40.8%で、前年度6月補正後の予算額と比較して7056万円の増です。

また、投資的経費（普通建設事業費、災害復旧事業費）の予算編成比率は19.8%で、前年度6月補正後の予算額と比較すると22億7872万円の増となっています。

歳入においては、根幹をなす市税、地方交付税、臨時財政対策債などの一般財源の総額は、5891万円の減となる予算額となっています。

審査では、朝倉市が大規模事業へ取り組んでいく中で、今後の財政と事業費のバランスについて多くの質問がなされました。

「朝倉農業高等学校跡地活用推進事業」に
5億1520万円

朝倉農業高等学校跡地を活用し、「食と農と健康が集うふるさと公園」（仮称）を整備するため、施設解体工事、造成等公園整備実施設計を行います。



朝倉農業高等学校跡地

「甘木公園整備事業」に
1億9600万円

甘木公園を安全快適に利用できるように、親水デッキや護岸の改修などを行います。



改修予定の親水デッキ
みんなに愛される公園に

「秋月郷土館建設事業」に
5億1052万円

新秋月郷土館（仮称）を建設し、貴重な歴史・芸術資料を大切に保全・収蔵し、展示公開できる施設とします。

「小中学校空調設備設置事業」に
1億8128万円

新築建築主体工事、空調・給排水等設備工事などの事業費です。

「総合的体育施設整備事業」に
2699万円

朝倉農業高等学校跡地に総合的体育施設を整備し、市民のスポーツ需要に応えます。
平成27年度は基本設計業務を行います。

学校施設環境を整えるため、秋月・杷木校区を除く小中学校に空調設備を設置します。

平成27年度は中学校の普通教室、給食センター及び職員室に空調設備を設置し、平成28年度に小学校などへの設置を予定しています。



一般会計当初予算 291億円（前年：261.2億円）
特別会計当初予算 187.3億円（前年：178.5億円）

区 分	平成 26 年度 当初予算額(※)	平成 27 年度 当初予算額	対前年度比較		
			増減額	増減率	
一般会計	261 億 2741 万円	291 億 0000 万円	29 億 7258 万円	11.38%	
特 別 会 計	住宅新築資金等貸付	977 万円	885 万円	△ 92 万円	△ 9.44%
	簡易水道	833 万円	1061 万円	227 万円	27.33%
	国民健康保険	82 億 7865 万円	91 億 7150 万円	8 億 9285 万円	10.78%
	事業勘定	79 億 8922 万円	88 億 9716 万円	9 億 0794 万円	11.36%
	直診勘定	2 億 8943 万円	2 億 7434 万円	△ 1509 万円	△ 5.21%
	後期高齢者医療	8 億 3954 万円	8 億 9472 万円	5518 万円	6.57%
	介護保険	57 億 2271 万円	55 億 5212 万円	△ 1 億 7058 万円	△ 2.98%
	保険事業勘定	56 億 9981 万円	55 億 2961 万円	△ 1 億 7020 万円	△ 2.99%
	介護サービス事業勘定	2289 万円	2251 万円	△ 38 万円	△ 1.68%
	下水道事業	22 億 8387 万円	23 億 7881 万円	9494 万円	4.16%
	農業集落排水事業	4 億 2254 万円	4 億 2050 万円	△ 203 万円	△ 0.48%
	個別排水事業	2 億 8507 万円	2 億 9844 万円	1336 万円	4.69%
	工業用地造成事業	46 万円	46 万円	0 万円	0.00%
	特別会計合計	178 億 5097 万円	187 億 3604 万円	8 億 8507 万円	4.96%
合 計	439 億 7838 万円	478 億 3604 万円	38 億 5766 万円	8.77%	

※平成 26 年度当初予算額は、6 月補正後の本予算額を記載しています。
 万未満切り捨てのため、計が一致していません。

ふるさと納税制度のPR
 を行い、全国の朝倉市出身
 の方や朝倉市に関心のある
 方に朝倉市へ寄附をいただ
 きます。
 また、応援寄附金をいた
 だいた方へ特産品などを送
 付し、お礼を行います。

「ふるさと」応援
 寄附金に
 149万円

秋月小学校施設を使用
 し、秋月中学校との施設一
 体化を行うことで小中一貫
 校を設置します。
 学校設置に係る拡張用地
 購入や敷地造成設計委託な
 どの費用です。

「秋月小中一貫校施設
 建設事業」に
 3455万円

底チェック



平成27年度朝倉市一般会計予算については、3月定例会で、議長を除く19人の議員で構成される予算審査特別委員会を設置し、4日間の日程で審査し、原案のとおり可決しました。その中で取り上げられたいくつかの質疑・応答を要約して紹介します。

Q 広報紙費の削減についての考えは

A 経費削減については検討をしている

Q 市議会広報委員会では経費削減のため、市議会だよりの用紙の変更を検討している。

広報紙は1万9950部印刷し、2250万円の印刷代がかかっているが、どのような考えをもっていか。

A 紙面構成を工夫し、分かりやすい紙面であることを踏まえながら、いかに経費削減を行うか検討している。

Q 合併10周年に関する事業をもっとPRすべきではないか

A 事業に市制施行10周年の冠を付けるとともに、統一ロゴマークを使用することでPRしていく

Q 合併10周年に関する事業については予算を有効活用し、せっかく事業を行うのであればもっとPRすべきである。

A 合併10周年であること、市として合併10周年をどのように捉えているのか。

も市が一体となり、まちづくりを行っていくことを趣旨とし、記念式典などを計画している。

他の事業についても10周年の冠を付けることでPRを行い、さらに統一ロゴマークを市のホームページや封筒などの印刷物に使用し、

多くの方の目にとまるように取り組む。



Q 継続的な取り組みがなければ本当の地域農業のブランドはできないのではないか

A 平成26年度から農商工連携を進めている

Q 特産物育成事業について、生産者と農業団体と行政とが一体となり、「朝倉市はこのようなブランドを作る」という方向性に向かって継続的に取り組まなければ本当の地域農業のブランドはできないのではないか。

A 平成26年度から農業振興課、商工観光課、農林課、秘書政策課の4課で農商工連携を進めている。

現在、市内で栽培されている農産物は全て特産品になり得ると判断して取り組みを進めているが、野菜類であれば施設整備によって1年中、安定供給できる体制をつくることのできるよう、特化した地域に強みがある。

ブランド化には少し苦戦しており、もっと努力していきたいと考える。



